

ミカンキイロアザミウマに対する薬剤殺虫効果（2021年）

果菜類ではミカンキイロアザミウマによる被害が深刻で、殺虫剤が効きにくい傾向があり、生産現場では防除に苦慮しています。そこで、本虫に対する各種薬剤の効果検定を行いました。

ミカンキイロアザミウマ

雌成虫（体長1.4～1.7mm）



体色：高温期 低温期

被害



トマト
白ぶくれ症



葉表



葉裏

ナス被害葉（白点が散在）

ミカンキイロアザミウマ雌成虫に薬剤浸漬処理した
インゲン葉片を与えた時の48時間後殺虫効果（2021年）

IRAC コード	薬剤名	虫の採集地	京都市 西京区	久御山町	処理濃度 (倍)
1A	ランネート45DF		×	×	1,000
1B	スミチオン乳剤		○	△	1,000
3A	アグロスリン乳剤		×	×	2,000
4A	アドマイヤー水和剤		×	×	2,000
4A	アルバリン顆粒水溶剤		×	×	2,000
5	スピノエース顆粒水和剤		◎	△	2,500
5	ディアナSC		◎	△	2,500
6	アグリメック		○	△	1,000
13	コテツフロアブル		△	△	2,000
14	リーフガード顆粒水和剤		◎	○	1,500
28	ベネビアOD		×	×	2,000
	参考(72時間後)		(△)	(△)	
28	ヨーバルフロアブル		×	×	2,500
	参考(72時間後)		(×)	(×)	
30	グレーシア乳剤		◎	◎	2,000
UN	プレオフロアブル		○	○	1,000
未定	ファインセーブフロアブル		◎	◎	1,000

注) ◎: 死虫率が90%以上、○: 70～89%、△: 50～69%、×: 49%以下

両採集地とも高い殺虫効果を示したのは、グレーシア乳剤及びファインセーブフロアブルで、次いでリーフガード顆粒水和剤、プレオフロアブルの順で、採集地によって効果の異なる薬剤もありました。

- 品目によって薬剤登録情報が異なりますので、適用表を確認のうえ散布してください。
- 効果の高い薬剤でも、連用すると殺虫効果低下のおそれがあります。